

2025年度AO選抜 文学部 国際文化学域
「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際文化学域	49	35	34

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

提出された出願書類に基づき、これまでの国際的経験から学び得たことや、大学で学びたいテーマについて具体的にまとめられているかどうか、そしてそれらが国際文化学域で学ぶ目的と関連づけられているかどうかに着目しました。

(2) 解答状況

それぞれの学生が海外留学や異文化交流の経験があり、ほとんどが(1)の評価ポイントに沿って記述できていました。一方で経験内容が共通しているものも多く、その中でより意欲の高い学生を選ぶことが非常に難しかったです。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

エントリーシートと同じく、国際的経験やこれまでの学びから得たことについてより具体的に説明できるかどうか、国際文化学域での学びに関連づけて考えられているかどうか、将来への設計などに着目しました。

(2) 解答状況

口頭による面接であるため、はじめは緊張していてうまく話せない学生も多少見られましたが、多くはしっかり準備して質問によく答えられていました。自身の興味関心と、国際文化学域の学びが合致していないものもありましたが、ほとんどの学生は将来設計まで含めてよく考えており、非常に意欲的な印象でした。

(3) 試験（面接）内容

基本的には、ES及び志望理由書の内容に基づく質疑応答です。これまでの経験、国際文化学域を志望する理由、卒業後に希望する進路を口頭で説明し、関連する質問に答えるという構成です。

(4) 出題（面接）の意図

自分の経験や学びがこれから国際文化学域で学びたいことと合致しているかどうか、

立命館大学の学生として学んでいけるかどうかに着目し、エントリーシートと面接の回答が合致しているかどうかの確認を行いました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

エントリーシートの文章ではよく書けていて、口頭で質問されるとすぐに答えられないという学生も見受けられました。情報収集したことを暗記するだけではなく、自分のテーマについて普段から自身の言葉でしっかりと考えることで、実のある知識を身に付けてほしいと思います。

以上